

副甲状腺機能亢進症について

尿路結石症の約 1%で副甲状腺機能亢進症を認めます。副甲状腺に腺腫、過形成、癌などが発生すると、副甲状腺ホルモン(PTH)が過剰に分泌され、骨代謝異常、高カルシウム血症、低リン血症を起こします。これによって尿路結石が多発し、再発を繰り返します。

副甲状腺機能亢進症でも腺腫の場合には手術を行うことで根治する可能性が高いです。また、多発性内分泌腫瘍症(MEN)を合併していることもあるため、MEN1 では膵消化管内分泌腫瘍と下垂体腺腫、MEN2 では甲状腺髄様癌と褐色細胞腫の精査が必要です。

症状

無症状の場合もありますが、尿路結石による痛みや血尿、骨代謝異常による骨折や関節痛が主な症状です。尿濃縮能の低下による口渇、多飲、多尿を認めることがあります。消化器症状として食欲不振、悪心、嘔吐、便秘など、神経症状として易疲労感、情緒不安定、反応遅延、記憶力低下、抑うつ経口などもあります。

検査

- ①血液検査：PTH 高値、カルシウム高値(10mg/dL 以上)
- ②超音波検査、CT、MRI、^{99m}Tc-MIBI シンチグラフィー：肥大した副甲状腺の局在を診断します。約 80%で局在診断が可能です。

治療

- ①手術療法：根本的な治療で、腺腫であれば根治する可能性が高いです。過形成や癌であれば再発する場合があります。
- ②薬物療法：手術が困難な場合や術後再発の場合に行います。高カルシウム血症の是正にシナカルセット(レグパラ)を内服します。骨粗鬆症を合併している場合にはビスホスホネートも併用します。